地域支援センター　「みみらんど・郡山」

平成２５年度 きこえとことばの学習会

第１０回先輩の話を聞く会①「私の生い立ち～１５年間の聾学校生活を通して～」

１２月１９日に第１０回きこえとことばの学習会を開催しました。今回は、聾学校の卒業生であり本校職員でもある中村孔一教諭が、自身の生い立ちについてお話ししました。

＜母が聾学校を選択した理由＞聾学校を選択するに当たっては、難聴児の中で言葉を覚えたり話したりできるようになるのかがとても心配でしたが、聾学校での指導を受けながら、着実に力を付けていくことが一番だと思い聾学校幼稚部への入学を決めました。

＜幼稚部時代＞指文字（五十音表）はビニール袋に入れ風呂の壁に貼って覚えました。言葉を獲得していく過程の中で、母は音声だけでなくそのものの特徴を身振りで示しながら、母と子の共通の手話を作ってコミュニケーションをとっていました。

＜小学部時代＞普段の生活では指文字を使うことが多かったのですが、夏のお話会は手話と音声で発表していました。何よりも学級における友達とのやりとりが充実していました。この時代を振り返ると、子どもどうしの話が理解できないと育たないということを実感します。

＜中学部時代＞バドミントンの魅力にはまり、部活に励みました。教員の道へ進もうと決めたのは中学１年時の離任式でした。高校入試では一般高校の推薦入試で失敗し、一般入試も一般高校を受験する予定でしたが、急きょ聾学校の高等部受験に変更しました。友達の大切さや応援してくれる先生のアドバイスがあったからです。

＜高等部～大学、大学院時代＞高等部入学時から大学に行くことを決めていたので、勉強以外にどんなことがあったか覚えていないくらい勉強に没頭した３年間でした。大学では、全てを自力で行わなければならず、とにかく情報を集めることに専念しました。そして、ノートテイクやパソコンテイクなど、学科の先輩方の協力を得ながら講義を受けました。一番の思い出は全日本ろう学生懇談会との出会いです。この団体に入り、手話で自分の考えを伝えたり人の考えを聞いたりすることで視野が広くなったように感じます。

＜聾学校にいる間に身につけておきたいこと＞『基礎学力』や『自ら考え判断し行動する力』。コミュニケーションスキルとしては、『多様な手段』を獲得することです。手話だけ口話だけでは、ろう者の世界でも聴者の世界でも、どちらにも居場所がなくなってしまいます。そして、何より大切なのは、『障がい認識やアイデンティティの確立』です。「私は聴覚障がい者です。」と自信をもって言えることが心の安定につながるので、そのためにも成人ろう者のロールモデルが重要になってきます。教師だけでなく弁護士や手話通訳士など多方面で活躍されている先輩がいるので、後輩のみなさんには夢をもって頑張ってほしいと思います。

参加した方からは「成人ろう者とコミュニケーションをとる機会を作ってあげたい」「親子で頑張り一緒に成長していきたい」などの感想が聞かれました。「子どもの気持ちを理解できる教師になりたい」と熱く話した中村先生。教師として、聾学校の先輩として、今後の活躍がとても楽しみです。